

三陸の海を放射能から守る 岩手の会

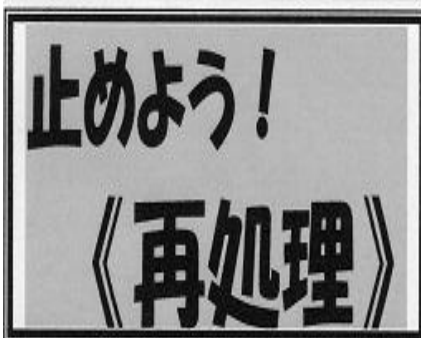
(略称) 三陸の海・岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理/岩手の環境》

<http://sanriku.my.coocan.jp/>

《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》

2014(平成26)年

8月20日

第145号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

高レベル放射性廃液をゼロとせよ!

再処理工場の重大事故に係わる 公開質問状

公開質問状の要旨

日本原燃

社長 工藤健二様

提出団体 (青森・北海道・岩手の
6団体)

花とハーブの里・PEACE LAND
核燃から海と大地を守る隣接農
漁業者の会 大間と私たち・未
来につながる会 豊かな三陸の
海を守る会 三陸の海を放射能
から守る岩手の会

本年1月原子力規制委員会へ提出された新規制基準に対応する「事業変更許可申請書」は高レベル廃液などの事故対策があまりに不十分。過酷事故を起こさない覚悟に乏しい。

- (1) 高レベル放射性廃液の潜在的ハザード(危険)を認めるか?
- (2) 過酷事故の防止はできるのか?
- (3) 六ヶ所再処理工場の「アクティブ試験」は終了したのか?
- (4) その他 防災計画への見解

再処理工場の火山対策 耐震基準はあまりに不備など

* 提出の「要請・質問状」の全文と賛同86団体は以下をご覧ください

<http://sanriku.my.coocan.jp/140731JNFL.pdf>

七月三十一日、再処理工場の撤退を求める市民六団体(協賛八六団体)代表は「再処理工場の重大事故防止に関わる要請・公開質問状」を日本原燃へ提出しました。提出行動には、日本原燃広報部担当者八人が対応しました。

始めに六ヶ所村「花とハーブの里」の菊川慶子代表が質問状を読み上げ、同部総括グループリーダー小枝元氏に手渡しました。質問状には原子力規制委員会に提出した「新規制基準・事業変更許可申請書」への数々の疑問点が書かれています。その後約五〇分にあわたって市民団体から質疑や意見が出され、原燃広報部としての若干の口頭による回答があり、文書による正式回答は九月一日までに行うとしました。この行動について朝日新聞、デーリー東北、青森テレビが取材しました。

日本原燃に提出 六ヶ所再処理工場の 潜在的ハザードを認めないのか?



公開質問状の手渡し

JAEAのヒアリングでは「潜在的ハザード」を認めた
市民側から昨年七月
規制委員会が東海再処
理工場について行った
「高放射性廃液などの
潜在的ハザード(危険
性)」についてのヒアリ
ングとの関連が質問さ
れました。(本紙第一四〇
号参照 例えば「再工場
の高レベルの放射性廃
液は組成は同じなの

か?、ハザードとして認めガラス固化のための計画書を提出しているのか?」などでしたが、担当者は「JAEAのいうハザードの定義は不明だが、高レベル廃液はガラス固化していくべきものだ」「昨年五月アクティブ試験第五ステップのガラス固化はクリアできた」と国へ報告した。国はまだ認めていない」と答えました。

さらに、市民側から

「昨年十月に公表された新開発ガラス溶融炉は、実際に使用するものなのか?」との質問がなされました。原燃の回答は「今設置されている炉は実運転五年の設計。将来的に新型炉に変更していく。開発した炉は、実際に使用する炉であり、今は放射性物質の入れない廃液で試験運転を行っている」と答えました。

過酷事故の「バックアップ」はなぜ公表されないか

市民側から「貯蔵中の高レベル放射性廃液は放射性セシウムだけで広島原爆五八〇〇発分もある。過酷事故のシミュレーションがなけ

れば避難計画や公衆防護もできない。E Z P（防災対策重点地域）が五^キでは狭すぎる」という意見が出されました。原燃担当者は「E Z Pの範囲をどうするかはまだ決められていない。原発は三〇^キでありその半分くらいか。六ヶ所村長はこれが決まらない限り安全協定を結ばないとしている」と答えました。

市民側から「アクティ
ブ試験開始のときには
岩手で説明会があった。
本格操業時に岩手に説
明に来るのか」との質問
がなされました。担当
者は「社長に伝えたい」と
しました。市民側は「稼
働よりも、安全が第一で
あり、国任せではいけな
い。旧西ドイツのシミュ
レーションでは再処理
工場の事故による犠
牲者は国民の半数の三
千万人に上るとした。原
発よりも狭い範囲のE
Z Pでは間に合わない」と
述べました

高レベル放射性廃液タンクと 使用済み核燃料プールが近接

市民側から「JAEA
は、ヒヤリングで、高レ
ベル廃液を二十年でガ
ラス固化するという計
画書を出したという。六
ヶ所工場は、百メートル
の近接距離に三千トン
の使用済み核燃料プー
ルがあり、事故が事故を
呼ぶ危険があり制御不
能となるかもしれない。
危険の自覚があるのか」と
意見が出されました。
それに対する回答は
「高レベル廃液の事故
による蒸発乾固には大
きな注意意識を持つて
いる。電源が大切で非常
電源五基のジーゼル発
電機、二台の電源車など
配置している」「廃液貯
蔵タンクの冷却パイプ
や水素の掃気パイプの
漏洩についての間には、
電源確保対策の他に、十
分な強度の構造物とし、
冷却も複数ルートで行
う。場合によっては外部
からタンクを直接冷や
す。貯水槽が壊れたなら
ば尾駱沼から直接取水
する。厳冬期にも訓練し
た」などでした。

住民への事故広報は

市民側から「大事故の
際の周辺住民へはどう
知らせ、どう避難させる
のか親身が見えてこ
ない」という質問があ
りました。担当者は「広

報の訓練なども行っ
ている」と答えました。さ
らに「本格稼働になると
高濃度のトリチウムが
福島漁民と東電との
協定値（一五〇〇ベクレ
ル/時）と比べるとその
約十一万倍の濃度で日
常的に放出される。トリ
チウムはぜひ除去して
ほしい。」と質しました
が、原燃の答えは「ご意
見としてお聞きする」で
した。（まとめ・尚）

岩手県議会環境福祉委員会

子どもたちの甲状腺検査依頼

西尾正道氏の参考人招致を要請

岩手県議会環境福祉委員
会は「県南三市町におけ
る子どもの甲状腺検査実
施申請」について「継続
審議」とし、九月二日に、
（独）放射線医学総合研
究所の明石真言氏を参考
人として意見聴取する
としました。

これに対して請願市民
グループ五団体は、参考
人を招致して議論を深め
ることに異論はないが、
明石真言氏はこれまでの
言動では放射線被曝を軽
視し原発推進の立場であ
ると断ぜざるを得ない。
従って明石氏だけでなく、
放射線内部被曝に詳しい
西尾正道氏（北海道がん

女川から未来を考えるつどい

約1500人が集まった。



八月十日早朝盛岡からクルマに
乗り合わせ駆けつけた。台風接近中
の風と雨にもかかわらず女川町総
合体育館は満席。女川原発反対を原
点とする小出裕章さんの講演と、心
にしみる加藤登紀子さんの歌とト
クに聞き入った。◆それにも増して
素晴らしかったのが地元と近隣住民
十人のリレートーク。被災したワカメ
やカキ養殖を復活させようと奮闘
する漁業者。稲藁の汚染と闘う牛農
家。何をするにも放射能に注意！の
生活となった3・11以後の日本、
鉄腕アトムの歌名を知らない子供
たちに新しい夢を甦らせたいと語
る母親。長年町長を続けてきたが原
発事故で目が覚めた、町を上げて核
廃棄物反対・廃炉を求めて運動が始
まったと力説する元町長さん。◆
津波被災と放射能汚染の影に、地
足を据えて立ち向かおうとする
人々の祭りのひと時であった。（尚）

センター・名誉院長）を
招聘するよう要望書を提
出しました。

八月五日、環境福祉委
員会が開催され請願市民
が推薦する参考人を招致
するかどうか話
し合われ、及川委員長は
「九月二日の明石氏の話
を聞いた後に検討し決定
する」としました。

【市民グループの西尾正 道氏招致要請の理由】

◇福島での甲状腺ガン発
見、手術は異常に多い。

◇明石真言氏は「福島原
発事故で、現場労働者も
住民も被ばくで治療を必
要とする人はいなかっ
た」（2011.5 WHO
総会発言）「内部被曝のデ
ータを集めているところ
であるが、現在までの結
果では直ちに影響が出な
い」（2014.5参議院内
閣委員会）と発言している。

◇西尾正道氏は放射線に
よるがん治療の実績があ
り最近話題になった「美
味しんぼ」鼻血論争で、
「内部被曝の原因で出
血することがあっても不
思議ではない」「ICRP
論理による健康影響評価
では現実には起きている全
身倦怠感などの放射線内
部被曝の症状が説明でき
ない」などと著作で述べ
ている。